

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input type="checkbox"/> Clear Selections	<input type="button" value="Print/Save Selected"/>	<input type="button" value="Send Results"/>	<input type="button" value="Display Selected"/>	Format Free
--	---	--	---	---	----------------

1. ☐ 8/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2005 Thomson Derwent. All rts. reserv.

009470788

WPI Acc No: 1993-164327/199320

XRAM Acc No: C93-072990

Hair dyeing agent compsn. for gradual dyeing - contg.
tar-type acidic colouring, higher alcohol, higher fatty acid and benzyl alcohol

Patent Assignee: HOYU KK (HOYU-N)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 5097637	A	19930420	JP 91264001	A	19911011	199320 B
JP 96000765	B2	19960110	JP 91264001	A	19911011	199606

Priority Applications (No Type Date): JP 91264001 A 19911011

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan	Pg	Main IPC	Filing Notes
JP 5097637	A		5	A61K-007/13	
JP 96000765	B2		4	A61K-007/13	Based on patent JP 5097637

Abstract (Basic): JP 5097637 A

Agent contains 0.01-0.5 wt.% of tar-type acidic colour, 3-10 wt.% of higher alcohol, 0.5-5 wt.% of higher fatty acid and 1-6 wt.% of benzylalcohol. The pH of the mixt. is 2-5. Viscosity is 5,000-20,000 cps. It is in a cream state.

USE/ADVANTAGE - White hair becomes inconspicuous by repeatedly using the agent after shampooing at home. Decolouration is reduced. It does not contaminate clothes and pillow case. It is easily used.

Dwg. 0/0

Title Terms: HAIR; DYE; AGENT; COMPOSITION; GRADUAL; DYE; CONTAIN; TAR;
TYPE: ACIDIC; COLOUR; HIGH; ALCOHOL; HIGH; FATTY; ACID; BENZYL; ALCOHOL

Derwent Class: D21; E19

International Patent Class (Main): A61K-007/13

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2005 Thomson Derwent. All rights reserved.

<input checked="" type="checkbox"/> Select All	<input type="checkbox"/> Clear Selections	<input type="button" value="Print/Save Selected"/>	<input type="button" value="Send Results"/>	<input type="button" value="Display Selected"/>	Format Free
--	---	--	---	---	----------------

© 2005 Dialog, a Thomson business

資料 5

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-97637

(43) 公開日 平成5年(1993)4月20日

(51) Int. Cl.
A61K 7/13

識別記号
8615-4C

F I

(B)20202380217


審査請求 未請求 請求項の数2 (全5頁)

(21) 出願番号 特願平3-264001

(22) 出願日 平成3年(1991)10月11日

(71) 出願人 000113274

ホーユー株式会社

愛知県名古屋市東区徳川1丁目501番地

(72) 発明者 相地 敏明

愛知県愛知郡長久手町大字長湫字榎木1番

地12 ホーユー株式会社研究所内

(74) 代理人 弁理士 足立 勉

(54) 【発明の名称】 除染性染毛剤組成物

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 染着力が優れている上、色落ちが少なく、しかも、頭皮や手指に対する汚染が小さい除染性染毛剤を提供する。

【構成】 タール系酸性色素に特定量の高級アルコール（たとえばミリスチルアルコール、セチルアルコール等）、高級脂肪酸（たとえばパルミチン酸、ステアリン酸等）及びベンジルアルコールを配合し、しかも、混合物のpHを2～5及び粘度を5,000～20,000 c p s の範囲に調節したクリーム状の除染性染毛剤組成物。

【効果】 毛髪に対する塗布性が良好で染着性に優れ、色落ちが少ない。また、毛髪以外の汚染に対する洗浄効果に優れている上、クリーム基剤の安定性も良好。

(2)

特開平5-97637

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ① タール系酸性色素 0.01～0.5重量%、

② 高級アルコール 3～10重量%、

③ 高級脂肪酸 0.5～5重量%及び

④ ベンジルアルコール 1～6重量%を含有し、しかも、混合物のpHが2～5があり、且つ、粘度が5,000～20,000cpsのクリーム状であることを特徴とする徐染性染毛剤組成物。

【請求項2】 水溶性アルコール類1～5重量%を更に含有することを特徴とする請求項1記載の徐染性染毛剤組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は徐染性染毛剤組成物に関するものであり、詳しくは、数回繰返し使用することにより、白髪を徐々に目立たなくしたり、黒髪に色づけをすることで、明暗を付与したり、また、微妙な色の変化を楽しむような用途に用いられる染着力に優れ、色落ちが少なく、なお且つ頭皮や手指への染着の少ない徐染性染毛剤組成物に関するものである。

【0002】

【従来技術】 従来、タール系酸性色素を用いる酸性染毛剤は色素量が多く毛髪への染毛力は高いものの、頭皮や皮膚に染着した色素を落すのが非常に困難であった。そのため、熟練した美容師が施術する必要があり、素人が用いる一般家庭用染毛剤としては不向きであった。また、染毛後の色落ちも多く、枕カバーや衣服を汚染することもある。

【0003】 一方、近時、消費者の志向として、白髪は気になるが、ある日突然黒髪に変わるような急激な変化を望まず、白髪が自然と目立たなくなればよいとか、黒髪を少し明るく見せたいとか、また、色づけして変化を楽しみたいという需要が多くなっている。そして、この処理も家庭で、手軽にでき、繰返して数回処理することにより、徐々に染毛処理できる所謂、徐染性染毛剤が要望されている。

【0004】 この要求を満たすために、少量のタール系酸性色素を含む染毛剤が提案されているが、毛髪に対する染着力と頭皮や皮膚に対する汚染との兼ね合いが難しく、両者を満足する徐染性染毛剤は見当らなかった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は上記実情に鑑み、タール系酸性色素を含む一般家庭用染毛剤において、毛髪に対する染着性が良好な上、色落ちが少なく、しかも、頭皮や皮膚に対する汚染の少ない徐染性染毛剤を提供することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明者は上記の目的を達成すべく種々検討を重ねた結果、タール系酸性色素を

着色成分とする徐染性染毛剤において、特定成分を選択的に限定量、組合せて配合するとともに、混合物のpH及び粘度を所定の範囲に調節することにより、本発明の目的が達成されることを見出した。

【0007】 要するに、本発明の場合、高級アルコールと、高級脂肪酸を主体としたクリーム基剤が、溶剤として色素の毛髪への付着効果は高いが、クリーム基剤の乳化安定性を損うベンジルアルコールの有効量配合を可能とし、少量のタール系酸性色素の配合で、染着性に優れ、色落ちも少なく、更に施術時の頭皮や手指への染着も少ないことを見出した点が特徴である。

【0008】 すなわち、本発明の要旨は、①タール系酸性色素0.001～0.5重量%、②高級アルコール3～10重量%、③高級脂肪酸0.5～5重量%及び④ベンジルアルコール1～6重量%を含有し、しかも、混合物のpHが2～5であり、且つ、粘度が5,000～20,000cpsのクリーム状であることを特徴とする徐染性染毛剤組成物に存する。

【0009】 以下、本発明の構成につき詳細に説明する。本発明の徐染性染毛剤においては、上記①～④の各成分を組合せて使用することを必須の要件とするものであり、また、その使用量を後記実施例及び比較例から明らかにように、特定範囲に調整することが肝要である。

【0010】 本発明で対象となるタール系酸性色素としては従来公知のものでよく、希望する染着色に応じて適宜選定することができ、また、必要に応じて2種以上の色素を併用してもよい。これらタール系酸性色素の具体例としては、例えば、赤色102号(1-(4-スルホ-1-ナフチルアゾ)-2-ナフトール-6,8-ジスルホン酸のトリナトリウム塩)、赤色106号(9-(4'-スルホ-2'-スルホニウムフェニル)-6-ジエチルアミノ-3-(N,N-ジエチルイミノ)-3-イソキサントンのモノナトリウム塩)、赤色201号(4-(オルト-スルホ-パラトリルアゾ)-3-ヒドロキシ-2-ナフトエ酸のモノナトリウム塩)、橙色205号(1-パラ-スルホフェニルアゾ-2-ナフトールのモノナトリウム塩)、橙色402号(4-パラ-スルホフェニルアゾ-1-ナフトールのモノナトリウム塩)、黄色4号(3-カルボキシ-5-ヒドロキシ-1-パラ-スルホフェニル-4'-パラ-スルホフェニルアゾピラゾールのトリナトリウム塩)、黄色403号の(1)

(2,4-ジニトロ-1-ナフトール-7-スルホン酸のジナトリウム塩)、緑色204号(1-ヒドロキシ-3,6,8-ピレントリスルホン酸のトリナトリウム塩)、青色1号(4-{[4-(N-エチル-メタ-スルホベンジルアミノ)-フェニル]-[2-スルホニウムフェニル]-メチレン}-[1-(N-エチル-N-メタ-スルホベンジル)-Δ^{1,2}-シクロヘキサジエンイミノ]のジナトリウム塩)、青色203号(4-{[4-(N-エチル-ベンジルアミノ)-フェニル]-[5-ヒド

50

(3)

特開平5-97637

ロキシ-4-スルホ-2-スルホニウムフェニル)-メチレン)-(N-エチル-N-ベンジル- Δ^1 -シクロヘキサジエンイミン)のカルシウム塩)、紫色401号(1-ヒドロキシ-4-(オルト-スルホ-パラ-トルイノ)-アントラキノンのモノナトリウム塩)、黒色401号(8-アミノ-7-パラ-ニトロフェニルアゾ-2-フェニルアゾ-1-ナフトール-3,6-ジスルホン酸のジナトリウム塩)などが挙げられる。

【0011】上記タール系酸性色素の含有量は0.01~0.5重量%、好ましくは0.05~0.3重量%である。タール系酸性色素の量が前記範囲より少ない場合には、染毛効果が不十分となり、逆に前記範囲より多い場合には、頭皮や手指への染着が著しいばかりか、色落ちも多く望ましくない。

【0012】次に、高級アルコールとしては、例えば、ラウリルアルコール、ミリスチルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコールなどの、通常、炭素数10~23、好ましくは12~18の脂肪酸高級アルコールが挙げられる。これら高級アルコールは2種以上併用して使用してもよい。高級アルコールの含有量は3~10重量%、好ましくは4~8重量%である。この含有量が前記範囲より少ない場合、本発明の必須成分の一であるベンジルアルコールを良好に必要量配合することができず、組成物全体としての粘度が低くなりクリーム基剤の分離を引き起こす危険性がある。一方、前記範囲よりも多い場合、組成物全体の粘度が高くなり過ぎ、毛髪に塗布しにくく均一な染毛処理ができなくなるので好ましくない。

【0013】また、高級脂肪酸としては、例えば、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸などの、通常、炭素数10~20の飽和又は不飽和脂肪酸が挙げられる。これら高級脂肪酸も2種以上併用して用いても差し支えない。高級脂肪酸の含有量は0.5~5重量%、好ましくは1~3重量%である。この含有量が前記範囲より少ないと、クリーム基剤の安定性が悪くなり、逆に多過ぎると、粘度が高くなりすぎ染毛剤としての塗布性が不良となるので好ましくない。

【0014】本発明では上述のタール系酸性色素、高級アルコール、高級脂肪酸とともに、ベンジルアルコールを含有するが、ベンジルアルコールの含有量は1~6重量%、好ましくは2~5重量%である。ベンジルアルコールの含有量が前記範囲未満の場合、タール系酸性色素の毛髪への染着が悪くなり、また、前記範囲を超えた場合、クリーム基剤の安定性を損なうので好ましくない。本発明ではこのように所定量の高級アルコール、高級脂肪酸及びベンジルアルコールの相互作用により、安定したクリーム基剤を維持し塗布性及び染毛性に優れた染毛剤組成物を調製することができるのである。

【0015】本発明の染毛剤組成物においては、混合物のpHが2~5に調整され、且つ、粘度が5,000~20,000

0cps(センチポイズ)のクリーム状に調節されていることが重要である。pH調整剤としては、通常、クエン酸、乳酸などの有機酸又は塩酸などの無機酸が使用される。もし、pHが2未満であると頭皮や手指への染着が著しくなり、一方、5を超えると染着力が弱くなるので好ましくない。また、粘度についても、5,000cps未満の場合には、毛髪に塗布する際の染毛液のたれ落ちが大きく塗布性が不良となり、逆に、20,000cpsを超えた場合には、染毛液の流動性が悪化し均一な塗布ができなくなり、染着にむらが生ずる結果となるので好ましくない。

【0016】更に、本発明では上記各成分に加え、水溶性アルコール類及び/又は陰イオン界面活性剤を配合するのが一層好ましい。要するに、水溶性アルコール類の配合は、ベンジルアルコールのクリーム基剤への溶解を容易にする上、毛髪へのタール系酸性色素の染着力を強化する効果がある。また、陰イオン界面活性剤の配合は、クリーム基剤の乳化安定性を向上させ、しかも、タール系酸性色素の頭皮や手指への染着を抑制するばかりか、付着した色素を落し易くする働きがある。なお、本発明においては陽イオン界面活性剤を配合すると、タール系酸性色素とイオン結合を起こし、毛髪への染着力が低下するので、陽イオン界面活性剤の配合は避けた方が望ましい。

【0017】水溶性アルコール類の具体例としては、通常、エタノール、イソプロパノールなどの1価の脂肪酸低級アルコール、又はプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリンなどの脂肪酸多価アルコール等が挙げられ、特に多価アルコールが好ましい。水溶性アルコール類の配合量は、通常、1~5重量%である。また、陰イオン界面活性剤の具体例としては、例えば、アルキル硫酸塩型、アルキルエーテル硫酸塩型、スルホコハク酸塩型の界面活性剤が挙げられ、特に、アルキル硫酸塩又はアルキルエーテル硫酸塩が好ましい。陰イオン界面活性剤の配合量は、通常、0.2~2重量%である。これら水溶性アルコール類及び陰イオン界面活性剤についても各々2種以上のものを用いることができる。

【0018】なお、本発明の除染性染毛剤組成物には、必要に応じて、パラフィン類、ラノリン誘導体、エステル類、シリコンオイル類や動植物油等の油脂類や非イオン性界面活性剤、両性界面活性剤、抗フケ剤、育毛養毛剤、パラベン等の防腐剤、各種タンパク加水分解物、キサンタンガム等の水溶性高分子、グリコールエステル類等のパール化剤及び香料などの公知の配合剤を適宜に配合することもできる。

【0019】

【実施例】次に、本発明を実施例を更に具体的に説明するが、本発明はその要旨を超えない限り、以下の実施例の記述に制約されるものではない。

実施例1及び比較例1~6

(4)

特開平5-97637

表1に示したタール系酸性色素及び各種配合成分を所定量の割合で混合(精製水でバランス)し、しかも、所定のpH及び粘度に調整することにより調整したクリーム状の徐染性染毛剤組成物について、下記測定方法に従い

染色力試験、退色試験及び地肌汚れ落とし試験を行なった結果を表1にまとめて示す。

【0020】

【表1】

		実施例	比較例					
		1	1	2	3	4	5	6
タール系酸性色素	黒色401号 紫色401号 橙色205号	0.02 0.02 0.08	同左 同左 同左	同左 同左 同左	0.1 0.1 0.4	0.02 0.02 0.08	同左 同左 同左	0.1 0.1 0.4
配合成分 (wt%)	セリルアルコール	8.0	同左	同左	同左	2.0	—	—
	ステアリン酸	2.0	同左	同左	同左	0.2	—	—
	ベンジルアルコール	4.0	同左	同左	同左	0.5	6.0	同左
	テトラヒドロフラン	0.5	同左	同左	同左	0.1	—	—
(wt%)	アクリル酸	3.0	同左	同左	同左	1.0	15.0	同左
	グリセロール	—	—	—	—	—	2.0	同左
	ヒドロキシステアリン酸	—	—	—	—	—	—	—
pH*		3	1.5	6	3	3	3	3
粘度(cps)		15,000	15,000	15,000	15,000	2,000	15,000	15,000
染色力試験		◎	○	△	◎	△	○	◎
退色試験		○	○	×	◎	×	△	◎
地肌汚れ 落とし試験	水洗後	○	×	◎	×	○	△	×
	石けん 使用後	◎	△	◎	×	○	○	×
備考						**		

* pHは乳酸もしくは酢酸を用いて調整

** 40℃保存で乳化される。

【0021】(1) 染色力試験
毛束(白髪まじり人毛およびヤギ毛:重量約2g)を5%ラウリル硫酸ナトリウム5gを使用して洗浄し、温水にて、充分すすぐ。その後、余剰の水分をふきとり、徐染性染毛剤組成物2gを塗布し、櫛で均一にのばす。5分間室温にて放置した後、温水にて充分洗浄する。この操作を1日1回の間隔で、5回繰返し行ない、乾いた状態で染色力を下記基準より評価する。

【0022】<判定>

◎; ヤギ毛、白髪が暗褐色に着色しており、白髪が目立たない。

○; ヤギ毛、白髪が褐色に着色しており、白髪がやや目立ちにくい。

△; ヤギ毛、白髪がやや褐色に着色しているが、白髪は明らかに目立つ。

×; ヤギ毛にわずかに着色が見られるものの白髪には着色が見られない。

(2) 退色試験

染毛試験にて染毛した毛束を試験の1日後に、50℃の1%ラウリル硫酸ナトリウム水溶液に20分間浸漬した

後、温水で充分洗浄する。この際の退色程度を前記染毛試験の判定基準に従い評価する。

【0024】(3) 地肌汚れ落とし試験

徐染性染毛剤組成物0.2gを腕の内側部に直径1cmの円状範囲に塗り、10分間放置した後、温水で洗い流す。さらに石けんを使用し、10分間、指で軽くこすり、温水で洗い流す。水洗後、石けん使用後の皮膚への染色の度合いを下記基準により評価する。

【0025】<判定>

◎; 全く跡が残らない。

○; わずかに褐色の跡が残る。

△; 褐色の跡が残る。

【0026】×; 暗褐色の跡が残る。

【0027】

【発明の効果】本発明の徐染性染毛剤組成物によれば、家庭でシャンプー後などに数回繰返し使用することで、白髪を目立たなくしたり、黒髪に明暗をつけたり、色づけして、微妙な変化を楽しむような用途において、染色力に優れ、色落ちも少なく、そのため、枕カバーや衣服を汚すこともなく、更に、特殊な器具や技術を必要とせ

(5)

特開平5-97637

8

7
ず、素手にとって頭髮に塗布しても、頭皮や手指への染
着も少なく、付着した色も容易に落すことができるの

で、実用上極めて望ましいものである。

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.